

ダンボールコンポストをはじめよう！

生ごみを活かそう！減らそう！

可燃ごみの半分近くが生ごみです。その生ごみを各ご家庭で堆肥にし、ごみ収集に出さなければ、生ごみが資源として活かされ、ごみを大幅に減らせます。そこで、生ごみを堆肥化する道具として、日野市がおすすめしているのが「ダンボールコンポスト」です。

日野市では、「ダンボールコンポスト」の普及を図るため、市民サポーターと協力して、講習会を開催したり（市の広報でお知らせして）、各種イベントで展示・説明を行ったりしています。

ダンボールコンポストとは

ダンボール箱の中に基材として、竹パウダー（竹粉）とくん炭を入れておき、そこへ生ごみを毎日投入して、基材に住みついた微生物の働きで発酵分解させ、堆肥にするものです。生ごみは分解して消滅するので、体積はほとんど増えません。

手軽にでき、悪臭も出ない！

誰でも簡単に使え、そのうえ安価なので、ベランダなどに置いて手軽にはじめられます。

また、ダンボールは通気性があり、水分がたまることがないので、生ごみは腐敗しないで発酵分解し、悪臭が発生することはありません（発酵臭はします）。

ダンボールコンポストの利点

- ・できた堆肥を使えば、プランターやお庭でおいしくてビタミンやミネラルが豊富な野菜ができます。
- ・ごみを大幅に減らせ、排出回数の削減、ごみ袋代の節約もできます。
- ・生ごみを毎日処理でき、台所がスッキリし、清潔に保てます。

<ダンボールコンポストの購入>

●セット内容

- ・組み立てたダンボール箱 ・基材（竹パウダー9ℓ+くん炭6ℓ）
- ・虫よけ用布カバー ・底板（ポリ袋で包んだまま底に敷く）

●価格（税・配達料込み）

- ・セット 原価 2,340 円→（補助金適用で）500 円
- ・基材のみ 原価 1,015 円→（補助金適用で）250 円

●申込先

石田環境プラザ 電話番号042-584-3317

配達は、「ふらっと・すずかけ」が電話で配達希望日時を伺った上で行います（電話番号 042-594-9320）。

できた堆肥を使用されない場合は配達時に引き取ります。



ダンボールコンポストの使い方

〔1〕用意するもの

●セットに入っているもの

ダンボール箱・基材・布カバー・底板

●自分で用意するもの

- ・底の風通しをよくする台（園芸店でもらえる苗カゴが便利）
- ・シャベル（できればダンボールを傷つけない先が丸いもの）またはゴム手袋
- ・温度計（生ごみが発酵すると熱が出るので、温度で発酵状態をチェック）
※外気温以上の温度であれば順調に分解しています。

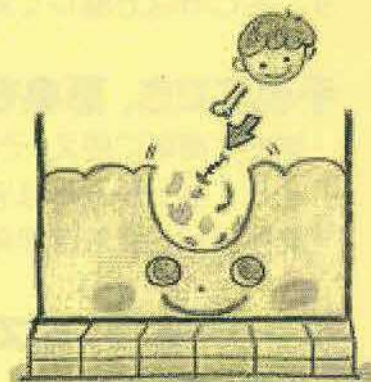


〔2〕はじめる前の準備

- ① 袋の中で水を加えて湿らせた基材をダンボール箱に入れ、よくかき混ぜる。
- ② 風通しをよくする台に載せ、ベランダなど雨の当たらない場所に置く。
（雨が吹き込む時は、ビニールシートや大きなビニール袋などをかぶせる。）

〔3〕生ごみの投入

- ① 真ん中に生ごみを入れる穴を掘り、生ごみを入れ、シャベルかゴム手袋で基材と混ぜ、まわりの基材をかぶせる。
 - ・生ごみ（特に野菜の芯など）は細かく切ると、分解が早い。
 - ・貝殻や鶏の骨など分解しにくいものは入れない。
（魚の骨や頭、卵の殻はOK。）
- ② 虫の侵入を防ぐため、ダンボール箱に布カバーをかぶせる。
- ③ 次に生ごみを入れる際には、全体をまんべんなくかき混ぜる。



〔4〕生ごみ投入中止の目安

スタートから3～5ヵ月経つと、基材にかたまりができ、分解が進まなくなる。

〔5〕熟成

- ・基材を別のダンボール箱などに移してフタをし、1～2ヵ月寝かせれば、生ごみ堆肥ができあがる（熟成中も1～2週間に一度水を加えて湿めり気を保つ）。
- ・空いたダンボール箱には、新しい基材を入れて再スタート。

<生ごみ堆肥の使い方>

堆肥：土＝1：4の割合で土と混ぜて使用。

根気よく続けよう！

- ・スタート当初は分解が進まないが、微生物がまだ繁殖していないため、そのまま続行。
- ・冬場は分解が遅くなり、温度も上がらないが、分解はゆっくり進んでいます。温度を上げたい場合は、生ごみを投入後に、米ぬかや天かす、廃食油を生ごみに混ぜます。
- ・もし虫が侵入して卵を産みつけ、幼虫が発生したら、基材を大きなビニール袋に移し、2～3日袋ごと天日干しをすると、幼虫は死滅します。

詳しくは、ダンボールコンポストセット納品時に配布するパンフレットをご覧ください。